

「令和3年度市申の手引き」正誤表

	誤	正																								
1	2ページ右下 基礎控除の説明文中 市民税県民税の場合、～基礎控除 <u>控除</u> は43万円です	市民税県民税の場合、～基礎控除 <u> </u> は43万円です																								
2	5ページ表中下から2段目 裏面の「 <u>4</u> 総合譲渡・一時所得に関する事項」を記入し、 「 <u>ケ</u> + {(<u>コ</u> + <u>サ</u>) × 1/2}」の金額を⑩に記入します。	裏面の「 <u>4</u> 総合譲渡・一時所得に関する事項」を記入し、 「 <u>コ</u> + {(<u>サ</u> + <u>シ</u>) × 1/2}」の金額を⑩に記入します。																								
3	6ページ <u>表2</u> の2のc c 公的年金等雑所得もあり、左表で算出した金額との合計額が10万円を超える場合 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">$\frac{(\text{左表で算出した金額} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$のいずれか少ないほうの金額</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">D</td> <td style="padding: 2px;">$\frac{(\text{公的年金等雑所得} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$のいずれか少ないほうの金額</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">給与所得金額 = 左表で算出した金額</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">- (C + D - 100,000円)</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> </table>	C	$\frac{(\text{左表で算出した金額} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$ のいずれか少ないほうの金額	円	D	$\frac{(\text{公的年金等雑所得} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$ のいずれか少ないほうの金額	円	給与所得金額 = 左表で算出した金額			- (C + D - 100,000円)		円	c 公的年金等雑所得もあり、左表で算出した金額との合計額が10万円を超える場合 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">左表で算出した金額と100,000円のいずれか少ないほうの金額</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">D</td> <td style="padding: 2px;">公的年金等雑所得と100,000円のいずれか少ないほうの金額</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">給与所得金額 = 左表で算出した金額</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">- (C + D - 100,000円)</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">円</td> </tr> </table>	C	左表で算出した金額と100,000円のいずれか少ないほうの金額	円	D	公的年金等雑所得と100,000円のいずれか少ないほうの金額	円	給与所得金額 = 左表で算出した金額			- (C + D - 100,000円)		円
C	$\frac{(\text{左表で算出した金額} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$ のいずれか少ないほうの金額	円																								
D	$\frac{(\text{公的年金等雑所得} - 100,000\text{円})}{100,000\text{円}}$ のいずれか少ないほうの金額	円																								
給与所得金額 = 左表で算出した金額																										
- (C + D - 100,000円)		円																								
C	左表で算出した金額と100,000円のいずれか少ないほうの金額	円																								
D	公的年金等雑所得と100,000円のいずれか少ないほうの金額	円																								
給与所得金額 = 左表で算出した金額																										
- (C + D - 100,000円)		円																								
4	9ページ⑩⑪寡婦・ひとり親控除【改正の概要】(今回の改正) 表中 <u>合計所得金額</u> 48万円～	<u>総所得金額</u> 等 48万円～																								
5	9ページ⑩⑪寡婦・ひとり親控除【改正の概要】(従前の内容) 表中 <u>合計所得金額</u> 38万円～	<u>総所得金額</u> 等 38万円～																								
6	11 ページ市民税・県民税の税制改正について 表中 <u>所得割の非課税限度額</u> の <u>合計所得金額</u>	<u>所得割の非課税限度額</u> の <u>総所得金額</u> 等																								